

株式会社サイブリッジ
マークアップガイドライン



CYBRIDGE

COPYRIGHT © 2013 CYBRIDGE CORPORATION



目次

目次

制作ガイドラインの利用方法

XHTMLの基本仕様1

XHTMLの基本仕様2

HTML5の基本仕様1

HTML5の基本仕様2

基本ページ設計（2カラム） 1

基本ページ設計（2カラム） 2

タグ表記 <HEAD>1

タグ表記 <HEAD>2

タグ表記 <HEAD>3

タグ表記 <HEAD>4

タグ表記 <HEAD>5

タグ表記 <BODY>1

タグ表記 <BODY>2

タグ表記 <BODY>3

パス

インデント

コメント



制作ガイドラインの利用方法

見方

必須 . . . 必ず守っていただきたいルールです

推薦 . . . 適用していただくことをオススメするルールです。

任意 . . . 任意で適用していただくルールです

ご質問・お問い合わせ

ご不明な点・疑問点、お困りになった事などがございましたら、ご連絡ください。

株式会社サイブリッジ
担当者 平山 恵子 TEL 03-6381-5900[代表] 03-6381-5904[直通]



XHTMLの仕様

文書型：XHTML 1.0 Strict（後方互換モード）に準拠し、原則的に非推奨タグは使用しない。
ただし、ウェブブラウザの互換性の問題を回避したり、ビジュアル表現を重視する場合には、ある程度逸脱することは許容する。

XHTML 1.0 Strict タグ一覧

```
<a> <abbr> <acronym> <address> <area> <b> <base> <bdo> <big> <blockquote> <body> <br> <button> <caption> <cite> <code> <col>
<colgroup> <dd> <del> <dfn> <div> <dl> <dt> <em> <fieldset> <form> <h1> <h2> <h3> <h4> <h5> <h6> <head> <hr> <html> <i> <img>
<input> <ins> <kbd> <label> <legend> <li> <link> <map> <meta> <noscript> <object> <ol> <optgroup> <option> <p> <param> <pre> <q>
<samp> <script> <select> <small> <span> <strong> <style> <sub> <sup> <table> <tbody> <td> <textarea> <tfoot> <th> <thead> <title>
<tr> <tt> <ul> <var>
```

非推奨タグ

```
<applet> <basefont> <center> <dir> <font> <iframe> <isindex> <menu> <noframes> <s> <strike> <u>
```



XHTMLの規則

- すべての XHTML 要素名・属性名を小文字で記述する。属性値やテキストは大文字が含まれても良い。
誤：`<P>` → 正：`<p>`
- すべての非空要素について終了タグを記述する。
誤：`<p>hogehoge` → 正：`<p>hogehoge</p>`
- 空要素は「空要素タグ」を用いて記述する。
誤：`
` → 正：`
`
- すべての属性値を引用符 (") で囲む。
誤：`height=55` → 正：`height="55"`
- 言語コードは `lang` と `xml:lang` と併記する。
正：`lang="ja" xml:lang="ja"`
- すべての属性に属性値を記述する。
誤：`checked` → 正：`checked="checked"`
- 区切り線を挿入したい場合コメント内に "--" を含めないで記述する。
誤：`<!-->` → 正：`<!-->`
- すべての "<" と "&" をエンコードする。">" もエンコードした方が良い。
誤：`love & peace` → 正：`love & peace`
- ファイル内の位置を示すには `id` 属性を併記する
誤：`` → 正：``
- head要素内のスクリプトやスタイルシートの注意
誤：`<script type="text/javascript"> <!--` →
正：`<script type="text/javascript"> //<![CDATA[`

HTML5の仕様

文書型：HTML5の最新仕様に準拠する。基本的にはXHTML 1.0 Strictの厳格性を維持したまま、文書をより構造化させることを目的とする。ウェブブラウザの後方互換性については十分に配慮する。

HTML5 追加予定タグ一覧

```
<article> <aside> <audio> <canvas> <command> <datalist> <details> <embed> <figcaption> <figure> <footer> <header> <hgroup>  
<keygen> <mark> <menu> <meter> <nav> <output> <progress> <section> <source> <summary> <time> <video> <rp> <rt> <ruby> <wbr>
```

HTML5 廃止予定タグ一覧

```
<acronym> <applet> <basefont> <bgsound> <big> <blink> <center> <dir> <font> <frame> <frameset> <isindex> <listing> <marquee>  
<nobr> <noembed> <noframes> <plaintext> <rb> <spacer> <strike> <tt> <u> <xmp>
```



HTML5の規則

- すべての HTML 要素名・属性名を小文字で記述する。
属性値やテキストは大文字が含まれても良い。
誤：<P> → 正：<p>
- すべての非空要素について終了タグを記述する。
誤：<p>hogehoge → 正：<p>hogehoge</p>
- 空要素のスラッシュは省略する。
誤：
 → 正：

- すべての属性値を引用符 (") で囲む。
誤：height=55 → 正：height="55"
- 言語コードの指定にlang属性を用いる。
正：lang="ja"
- 区切り線を挿入したい場合コメント内に "--" を含めないで記述する。
誤：<!-------> → 正：<!--=====>
- すべての "<" と "&" をエンコードする。">" もエンコードした方が良い。
誤：love & peace → 正：love & peace
- デフォルトのtype属性は省略する。
誤：<script type="text/javascript" src="xxx.js"></script>
正：<script src="xxx.js"></script>



基本レイアウト・ナビゲーション構成

基本となるコンテンツ幅は960pxとする。

※HTML5の場合は一部のエリアをdivから適切に置き換える。(カッコにタグを記載)

■ページエリア

「body」直下にID名「#wrapper」を使用して、ページ全体を括る。
さらに括る場合はID名「#container」を使用する。

■ヘッダーエリア (ナビゲーション)

ID名「#header」で括られた部分をヘッダーエリアとする。(header)
グローバルナビゲーションはID名「#navi」で括る。(nav)
ナビゲーションをヘッダーに含むかどうかは任意。※デザインによる。

■パンくずナビエリア

class名「.breadcrumbs」で括られた部分をコンテンツエリアとする。

記述例 : サイト名ホーム > 企業情報 > 企業理念

- ・左端(最初の項目)は必ずサイトのトップページ。表記はSEOを考慮し、「サイト名+ホーム」とする。(ただしデザインを優先とする)
- ・セパレータには半角の不等記号 ">" 等を画像として処理する場合、aタグの背景に使用すれば、CSSを切った際に不都合が起きない。

■コンテンツエリア

後述のID名「#main」及び「#side」をコンテンツエリアとして括る場合、「#contents」を使用する。

■メインエリア

ID名「#main」で括られた部分をコンテンツエリアとする。

■サイドナビゲーション

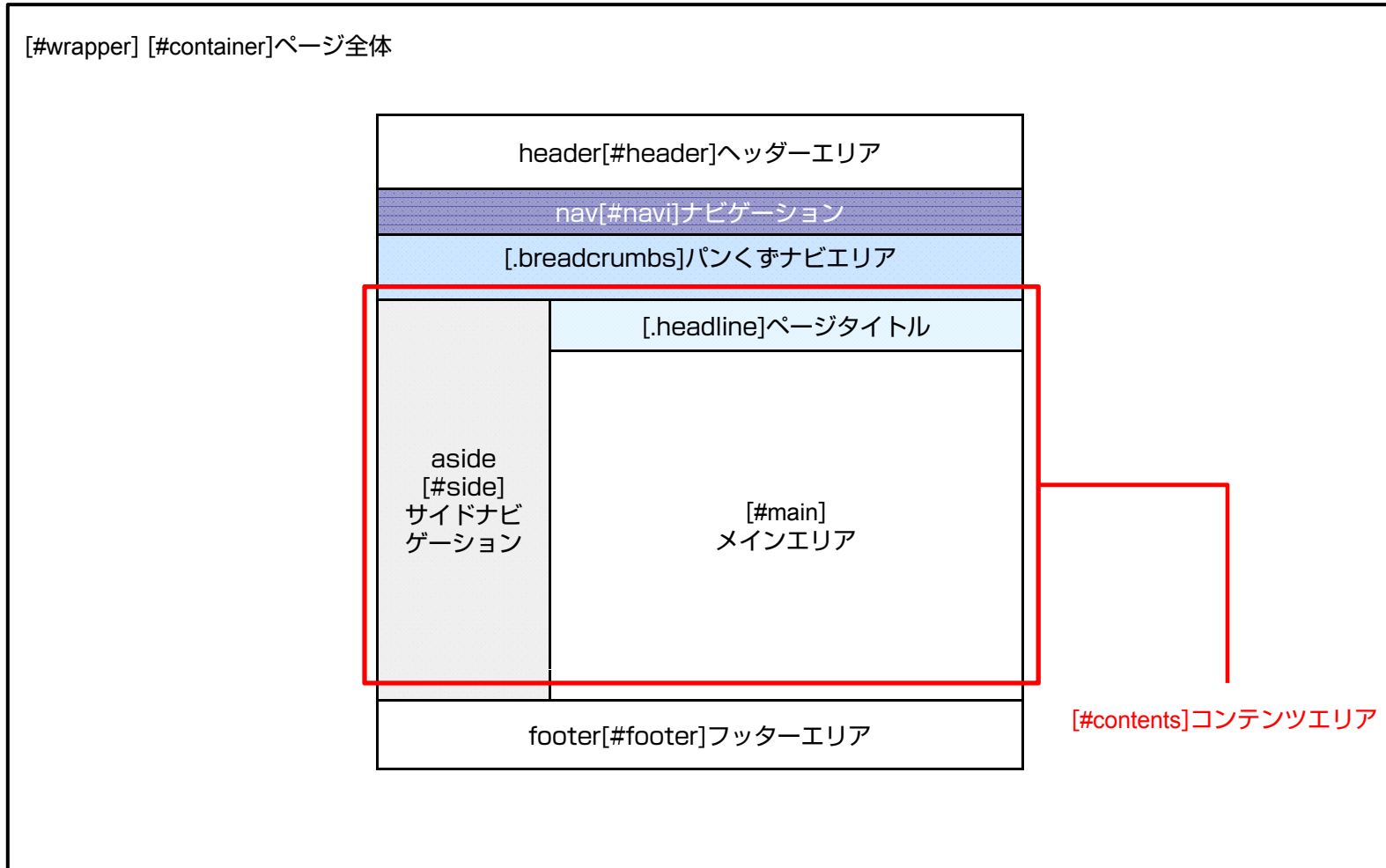
ID名「#side」で括られた部分をサイドナビゲーションとする。
掲載するバナーのサイズを考慮して幅を考える。(aside)
例: 250px、300px

■フッターエリア

ID名「#footer」で括られた部分をフッターエリアとする。
(footer)



基本レイアウト図解





タグ及び要素は全て小文字で記述する。ただし、JavaScriptのfunction名やname値、id値に関しては大文字の使用を許容する。

DTD

XHTML 1.0 Strict または XHTML 1.0 Transitional または HTML5

記述

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Strict//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-strict.dtd">  
または  
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN" "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">  
または  
<!DOCTYPE html>
```

SEOを意識したhead要素の書き方

1. DTD宣言
2. 文字コード
3. ディスクリプション
4. キーワード(2009年2月時点でSEO的には大して影響はない)
5. タイトル
6. CSSファイルの読み込み
7. ファビコン

※JSファイルの読み込みは、表示速度などの関係上、
<head>要素ではなく極力</body>の直前にまとめることが望ましい。



metaタグ

<head>要素には必ず<meta> タグを入れ、ファイル全体に関わる属性を指定する。

- ・ 使用している文字コードを特定し、ブラウザが自動判別する際の誤動作を防ぐ。
- ・ JavaScriptやCSSなどの拡張機能を利用し外部で管理する。

XHTML

```
<meta http-equiv="Content-Language" content="ja" />
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=UTF-8" />
<meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css" />
<meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript" />
```

HTML5※空要素のスラッシュは不要。

```
<meta charset="UTF-8">
```

description

該当ページの紹介文を**110文字程度**で記載する。

記述例： <meta name="description" content="株式会社サイブリッジはコンセプトメイキングやブランディングといったウェブサイトが潜在的に内包する要素を理解し企画からデザイン、開発、管理、運用に至るまで高品質なWEBサイトをプロデュースします" />

※ページ毎の説明文が難しい場合はそのサイトの紹介文を全てのページに記載する。

keywords

該当ページと関連するキーワードを、(カンマ区切り)で5~10個程度入れる。

記述例： <meta name="keywords" content="WEB制作会社,制作会社,WEBサイト構築,WEBデザインウェブサイト制作,検索エンジン対策,SEO" />

※ページ毎のキーワードが難しい場合はそのサイトのキーワードを全てのページに記載する。

viewport

ページをスマートフォンやタブレットに最適化させる場合は、原則として以下を記述する。

```
<meta name="viewport" content="width=device-width, maximum-scale=1.0, initial-scale=1.0, user-scalable=0">
```

**OGP**

```
<meta property="og:title" content="ページタイトル" /> (必須)
<meta property="og:type" content="ページタイプ" /> (必須)
<meta property="og:url" content="サイトURL" /> (必須)
<meta property="og:image" content="表示画像" /> (必須)
<meta property="og:site_name" content="サイト名" />
<meta property="og:locale" content="ja_JP" />
<meta property="og:description" content="ページ説明" />
<meta property="fb:app_id" content="アプリID"/>
```

その他のmetaタグ

必要に応じて下記の例に挙げられるmetaタグを記載する。

検索ロボットの制御

```
<meta name="robots" content="noindex,nofollow">
```

文書の著者

```
<meta name="author" content="株式会社サイブリッジ" lang="ja" xml:lang="ja" />
```

コピーライト

```
<meta name="copyright" content="COPYRIGHT&copy;CYBRIDGE CORPORATION." />
```

キャッシュの制御と有効期限の設定

```
<meta http-equiv="pragma" content="no-cache">
<meta http-equiv="cache-control" content="no-cache">
<meta http-equiv="expires" content="Sat, 31 Aug 2012 17:35:42 GMT">
```



titleタグ

<head>要素には、必ずそのファイルの<title> タグを記述する。

ページタイトルはページのコンテンツ内容に合わせて記載し、下位ディレクトリからサイトトップページへ上り順に記述する。

ディレクトリとディレクトリの間には「半角スペース」「|(半角)」「半角スペース」を記述する。

SEOを考慮し、ページ毎になるべくユニークなtitleを記載すること。

記述例

```
<title>事業案内 | 株式会社サイブリッジ</title>
```

linkタグ

ホームやヘルプページ、ファビコン等の記述、必要であればモバイルやRSS等の指定に使用する。

必須

```
ホーム： <link rel="index contents" href="/" title="ホーム" />  
ファビコン： <link rel="shortcut icon" type="image/x-icon" href="/img/favicon.ico" />
```

任意

```
ヘルプ： <link rel="help" href="/help/" title="ヘルプ" />  
モバイル： <link rel="alternate" media="handheld" href="http://www.cybridge.jp/m/" />  
RSS： <link rel="alternate" type="application/rss+xml" title="RSS 2.0" href="http://www.cybridge.jp/index.xml" />  
ページ送り： <link rel="prev" href="/news/229-0" /><link rel="next" href="/news/229-2" />  
イメージツールバー非表示： <meta http-equiv="imagetoolbar" content="no" />  
多言語： <link rel="alternate" hreflang="ja" href="日本語版URL" /> <link rel="alternate" hreflang="en" href="英語版URL" />  
スマートフォン用アイコン： <link rel="apple-touch-icon-precomposed" href="/img/apple-touch-icon.png" />
```



外部ファイル

Javascript、CSSなどは<head>タグ内には記載せずに外部ファイル化する。
HTML5の場合でもtype属性は記述を必須とする。CSSの読み込みに@importは使用しない。

CSS

```
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="/css/style.css" media="all" />
```

Javascript

```
<script type="text/javascript" src="/js/common.js"></script>
```

外部サイトから読み込む場合

httpsで表示している場合、httpを記述しているとエラーのアラートが表示されるため「//」から表示する。

```
<script type="text/javascript" src="//ajax.googleapis.com/ajax/libs/jquery/1.8.3/jquery.min.js"></script>
```



hタグ (見出し)

ページタイトルとなるテキスト、画像には<h1>タグを利用する。
下層ページはサイト名ではなく、コンテンツ内容となるテキストや画像に<h1>タグを利用する。
階層的には<h1><h2><h3><h4><h5><h6>の順番でhタグをつけていく。
サイドメニューなどSEO的に重要でない場合は、基本<h3>から始めるのが望ましい。

※HTML5の場合は、アウトライン構造を意識して、より正確にhタグを扱う。
見出しはできるだけ<section>で囲み<h1>でマークアップすることが望ましいため、基本的にはそちらに準拠する。
今後Googleがスパム判定する可能性が全く無いとは限らないため、従来の通り(h1~h6) 記載するか否かは案件により判断すること。

tableタグ

各子要素は可能な限り細かく記述するのが望ましい。(thead tbodyなど)
CSSによるコーディングが難しい状況(HTMLメールなど)以外では、tableによるレイアウトは禁止。
レイアウトにtableタグを利用する場合でもネスト(tableの中にさらにtableタグを入れる事)の回数をは最高2回までとする。

imgタグ

alt属性は必ず記述する。HTML5においても、アクセシビリティ向上のため記述は必須とする。

alt属性について

- ・適切な代替テキストを記述する。
- ・単純な図表であれば、図表の意味を簡単に記述する。
- ・テキスト画像を埋め込む場合には、その内容を記述する。
- ・透過GIF(スペーサー)や意味の持たないワンポイント的画像などの場合、属性値は無記入「alt=""」。

width・height属性について記述は任意とする。※極力サイト内で統一すること。

(レスポンスによる各デバイスへの最適化ではサイズ指定が無意味になるケースがあること、またメンテナンス性の低下や現行のブラウザではレンダリング速度への影響がほぼないなどの理由から)



title属性

aタグなどへのtitle属性はSEO効果はなく、リンク先の意味が合っていないと逆に減点対象になる可能性があるため、特別な理由がない限りは必要なし。

ただし、マークアップ的な意図で入れたり、下記のように細く説明を入れる場合はこの限りではない。

```
<a href="http://examples.jp/" title="SEO対策">http://examples.jp</a>
```

accesskey属性

aタグなどでのaccesskey属性は厳密なユーザービリティ、アクセシビリティの依頼がない限りは記述しなくても問題なし。

```
<a href="/" accesskey="0">ホーム</a>
```

別ウィンドウで開く

XHTML 1.0 Strictでは、aタグにtarget="_blank"を設定すると"invalid"（不適合）になる。
HTML5ではインラインフレームなどに役立つものもあり、非推奨ではなくなるので使用は適宜判断する。

現在はタブブラウザが一般に普及している背景も考え、
W3Cの準拠が最優先の案件でなければ、外部リンクには基本 target="_blank"を使用する。

画像の表示

■imgタグで表示するケース

- ・ロゴなどCSSを切った場合に非表示になり問題がある画像
- ・バナー画像
- ・クライアントが修正する可能性がある画像
- ・JPEGの写真

■CSS Spriteで表示するケース

- ・画像へのリクエスト数を減らしてレンダリング速度を上げたい場合
- ・アイコン画像などCSSで記述することでHTMLのコードがシンプルになる場合
- ・ボタン画像のロールオーバーをCSSのopacity以外で実現したい場合

■画像置換の注意点

※現在のGoogleではCSS画像置換は非推奨とされている。

※ユーザーが見る文字情報とGooglebotが見る文字情報に差がなければ基本は問題ない。

XHTMLとHTML5で意味が変更されている要素

 <i> <small> <hr>など各要素はHTML5で意味が変更されているので、使用の際は内容をよく確認しておくこと。

サイト内リンク設定やファイル参照は原則的に全てルート相対パスで記述する。
他ドメインや外部サイトへリンクを設定する際はフルパス（絶対パス）で記述する。

ルート相対パス

サイトのルートディレクトリ(<http://www.nais-c.com>の最上階層)からドキュメントまでのパスを示す記述法。
パスは「/」から始まり、目的のドキュメントまで記述する。
原則的に相対パス（「../profile/」）は使用しない。

記述例：<http://www.cybridge.jp/business/>へリンクを設定する場合

```
<a href="/business/">事業内容</a>
```

フルパス

ドキュメントの完全なURL(俗に言う「ホームページアドレス」)を示す記述法。
正確には「絶対パス」と呼ばれる記述法であるが、製作サイドによって「絶対パス」に対する認識に相違が多く見られるため、敢えて「フルパス」と呼称する。

記述例：<http://www.cybridge.jp/business/>へリンクを設定する場合

```
<a href="http://www.cybridge.jp/business/"></a>
```

補足

- | | | |
|---|---|---|
| ・ 絶対URL
http://www.cybridge.jp/
http://www.cybridge.jp/business/ | ・ 相対URIの絶対パス表記
/hogehoge.html
/search?q=%42oofy | ・ 相対URIの相対パス表記
foo/bar.html
./hogehoge.html |
|---|---|---|

HTMLのインデント

文書の構造をわかりやすく記述するために、HTMLのソースコードにはtabキーによるインデントと改行を使用する。

※インデント幅（タブ幅）は半角4文字。

改行タイプは「LF（Unix）」に変更。

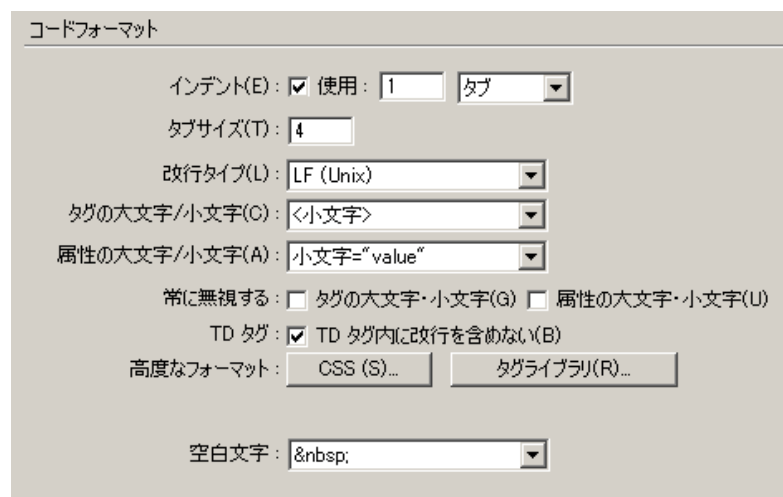
記述例

```
<div class="section">
  <table>
    <tr>
      <td>テキスト</td>
    </tr>
  </table>
</div>
```

Dreamweaverでの設定方法

1. [編集]から[環境設定]を開く
↓
2. [コードフォーマット]をクリック
↓
3. [インデント]項目の「使用」にチェックし、「タブ」を選択

※参考画像



HTMLのコメント

メンテナンス時に変更箇所(範囲)が特定しやすいように、構造に応じて最適なコメント「<!--」 「-->」を挿入する。
</div>終わりがどのエリアか明確にするため、各エリアの記述終わりにはコメントを記述する。

特に特定が難しいレイアウト用の</div>には必要だが、パンくずなど見てすぐわかるような箇所には必要なし。
HTML上では無駄なコメントの記述を控える。

記述例

```
<div id="#header">
  .
</div>
<!-- /#header -->
```

※Dreamweaver用の拡張機能があるので利用推奨。

<http://design.kayac.com/topics/2010/05/dreamweaver-extention.php>